

デーリー東北

2024年(令和6年)12月23日(月曜日) (11)

ロボットを操作し、白熱のバトルを繰り広げる学生



自作ロボ操り白熱バトル

ハ工大で コンテスト 八工高生も初参加

八戸

八戸工業大工学部機械工学コース(太田勝コース長)は17日、同大で「第27回ロボットコンテスト」を開催した。学生らが自ら設計、製作したロボットを操作し、白熱のバトルを繰り広げた。

コンテストは、同コース3年生向けの授業「プロジェクト実習」の一環として毎年開催。学生は7月から設計、9月から製作をそれぞれ開始した。

この日は学生37人に加え、高大連携事業の一環として、青森県立八戸工業高工業部のチーム「ロボティクス」に所属する生徒9人が初参加。学生が八つの班に分かれ、予選リーグと決勝トーナメント合わせて15試合を戦ったほか、高校生とのエキシビショ

ンマッチ1試合も行った。試合では、学生らが5色のアクリル製リングを運んで、同色のピンに全て引っかけるまでの時間の短さを競った。各試合で勝敗が決まると、会場から歓声と拍手が沸き起こった。

決勝トーナメントを制したA-2班の高松泰樹さん(21)は、「この日のために、何度も試作と改良を重ねてきた。優勝できて本当にうれしい。班の仲間たちとの友情も深まり、最高の思い出」と喜びをにじませた。

同高機械科3年の小田明希さん(17)は「大学生には技術的に及ばず、試合で勝つことはできなかったが、良い刺激になった。これからも研究と改良を続けていきたい」と飛躍を誓った。

(丹代裕太)

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。